

### 幸久橋の調査結果について(お知らせ)

国道349号幸久橋の通行止めにつきましては、地域の皆様にご不便をおかけしております。

橋脚に新たなひびわれが発見されたため、平成25年10月17日より通行止めとしておりますが、安全性を確認するための調査が終了しましたので、その結果についてお知らせいたします。

今回、新たにP14橋脚に発生したひびわれは、河川内の橋脚が流水により洗掘され、不安定な状態となっていることや、基礎地盤も弱く、地震等による強い力が掛かったことなどが原因と考えられます。

また、シミュレーション(模擬実験)をしたところ、強い地震(震度5強以上)が発生した場合、橋脚の傾斜、沈下や破壊、さらに橋桁のずれが生じ、通過車両に大きな危険を及ぼす結果となりました。

これらのことから、県といたしましては、老朽化した幸久橋を安全に通行できる状態にすることは技術的に難しく、通行の再開は困難であると判断しました。

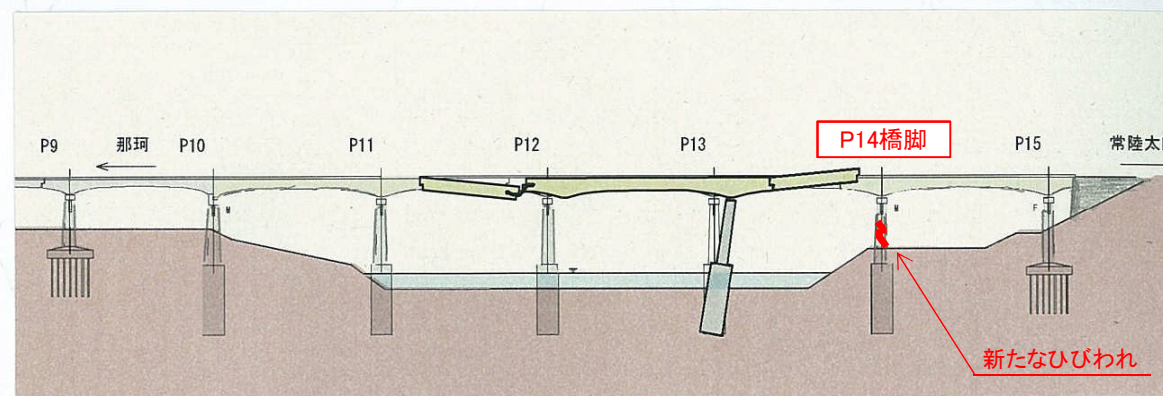
今後の対応といたしましては、市街地内の国道349号バイパスの必要性や常陸太田市からの要望も踏まえ、幸久大橋の4車線化に向けた検討を進めてまいりますので、何卒ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。



お問い合わせ先  
茨城県常陸太田工事事務所 道路管理課  
TEL 0294-80-3362



幸久橋の状況  
昭和10年の架設時には、河床は赤破線部分であったと推定されます。  
現在約3m位洗掘されており、不安定な状態になっています。  
(P12,P13橋脚)



強い地震が発生した場合のシミュレーション(模擬実験)結果  
橋脚の傾斜・沈下・破壊や橋桁のずれが発生し、重大な事故となる恐れがあります。

※強い地震とは、震度5強程度以上



幸久大橋の4車線化に向けた検討を進めてまいります。